

# 津別町第6次総合計画

(令和2年度～令和11年度)

暮らしたい、魅力あふれるエコタウン

令和2年度 進捗評価シート

令和3年6月

津別町

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●津別の子どもたちが町外へと巣立ってからも、「津別の子育て環境の良さ」を思い返し、「子育てをする場」として再び津別に戻ってくるまちとなっています。</p> <p>●子育て世代が住みたいと思う環境(働く場・住居・生活環境)が整っており、「子育てする場・暮らすの場」として選ばれるまちとなっています。</p> <p>●町民が子育てのしやすさを実感し、さらには町外にも発信され移住者が増加しています。</p> <p>●小さな子どもから中高生まで、子ども一人ひとりが気軽に安心して過ごせる居場所があります。</p>	<p>[1-1-1] 子育て情報の充実と「子育てしやすいまち」としての発信強化</p>	保健福祉課	<p>●子育て情報の発信:「つべひい」母子手帳・子育て支援アプリの導入～母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信が対象別にできる。R3.3月末現在、51名のユーザー登録。</p> <p>●子ども子育て支援会議を子育てニーズの把握と子育てに関する情報提供の場のひとつと捉えていますが、昨年度は実行できませんでした。</p>	<p>●導入年度のため、母子手帳交付や乳幼児健診場面で個々に周知した。それに加え、広くPRする予定だったが新型コロナウイルスの影響で実施が難しくなった。</p>	<p>●情報発信の媒体として効果的であるため、日々の関わりの中で導入を勧奨していきたい。</p> <p>●子育て情報を広く発信していきたい。</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育ては近隣に比べても良い。逆に削減可能な点はないか。</li> <li>●アプリとても良い。今後も情報発信などの充実を期待。</li> <li>●タウンニュースによる情報発信は、とても分かりやすい。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●津別病院に子育て掲示板(仮称)を設置して情報発信の場所を設けてみてはどうか、当院の事務所で協力可能。</li> </ul>
	<p>[1-1-2] 子育て世代のニーズにあった支援の充実</p>	保健福祉課	<p>●妊娠期から切れ目のない支援の充実:R3.10月子育て世代包括支援センター開設。</p> <p>●母親学級(プレママ学級)・両親学級:妊婦の出産準備教室として、助産師、栄養士、保健師による講話や実技の実施。夫婦で子どもを迎える準備教室を休日に実施。参加率33.3%。</p> <p>●育児学級(わんぱく学級):育児の学習機会として、保健師、栄養士、作業療法士、保育士による講話の実施。参加率79.2%。子育て世代のニーズ把握のためにアンケート調査を実施。</p> <p>●産後ケア事業:産後の母親に対して、開業助産師が心身のケアや育児支援を行い、安心して子育てできることをサポートする。利用しやすいよう、勧奨するタイミングを後期妊婦券交付時に行うと、利用率17.6%と例年より上昇した。</p>	<p>●勤務している方が多く、日中開催の教室に参加できない状況がある。</p> <p>●母子手帳交付、出生数の減少のため、対象者が激減し、教室開催が難しくなってきた。</p>	<p>●育児学級は、歯科に関するテーマを新規に加え、アンケートで要望があった父親も参加できる回を設けて実施する。</p> <p>●産後ケアは、これまで4か月以内3回利用だったが、12か月以内9回利用に拡大し、自己負担もこれまでの半額の600円とする。</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●素晴らしい取り組み。</li> <li>●子育て支援センターがコミュニティ形成に重要な場となっていると聞く。</li> <li>●移住希望者から津別の子育て支援は手厚いと言われる。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教室に参加できない状況への対策として家庭への訪問ヒアリングが考えられる。</li> <li>●母子教室などの交流があると助かる。</li> </ul>
	<p>[1-1-3] すべての子どもの安全・安心な居場所づくりの推進</p>	生涯学習課	<p>●コロナウィルス感染症防止対策として学校休業中も、児童クラブは開所した。クラブ登録者が増加傾向となり、児童館だけで受け入れることが難しくなったことから、10月から小学校図書室と分散して受け入れ対応した。</p> <p>●「アソビバつべつ」事業は、コロナにより事業の中止や事業の縮小など工夫して実施。(登録者数41名、16事業実施)メイン事業であるJA青年部との共催事業の年間通して食農教育事業は、畑づくりから最終プログラムの料理教室まで全事業実施できた。</p>	<p>●児童館開所については分散により、感染対策はしやすくなったが、遊び相手が限定されるなど、健全育成における課題や消毒作業などの業務の増加、指導員の人手不足が生じた。</p>	<p>●児童館運営については、関係機関と協議し、先を見据えた児童館のあり方を検討する。</p> <p>●「アソビバつべつ」事業で、つべつの歴史探検として、郷土資料室を活用して、シリーズ企画で津別の歴史を学ぶ機会の創出。</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●食育事業すばらしい。ぜひ継続してほしい。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●遊び相手限定への対策として、地域に関わる仕組みが考えられる。</li> <li>●昔のように自然(川、釣り、虫など)で安全に遊ぶことはできないか。</li> <li>●町内の民間事業者との連携や委託などにより、民間事業者の育成、幅広い居場所づくり、活動場所が生まれるようにしてはどうか。</li> <li>●中高生の居場所づくりについて、空き家リノベーションで自分たちの居場所を自分たちで作れたら良い。一緒に取り組みたい。</li> </ul>

[1-1-4] 若い世代が子育てできる《住む・働く・生活》の環境づくりの推進	建設課 (住宅、道路、インフラ)	【土木】H30.3月策定の舗装修繕計画により、計画的に道路の補修を行っている。 →町道350号線 L=80m(令和2年度) H28年度～これまでに3,700m実施済み  ・津別町新ふるさと定住促進条例による新築奨励金として5件、中古住宅購入の奨励金として3件交付	【土木】車道のみでなく、歩道の損傷が進行してきている。  ・若者や子育て世帯の住宅ニーズの把握の仕方について	【土木】車道と併せ歩道も計画的に補修できるよう「歩道修繕計画」の策定を進める。  ・新ふるさと定住促進奨励金の継続	【評価】 ・健康福祉センターがとても快適。  【提案】 ・近隣町村では歩道の整備されたメイン通りが際立っているため、歩道の整備は良い。 ・子育て世代が流出する大きな理由は「高校通学のバス費負担」。津別高校の存続も大切だが、子育て世代の親が町外へ家を買ってしまうと永遠と人口流出が止まらない。 ・町内にかかる屈斜路-津別線(消防前から禅昌寺前など)は、北海道へ改修要望を出しては。 ・新ふるさと定住促進奨励金においてSGEC木材の加算要件以外で補助金の加算を検討してはどうか。 ・町内会的な人付き合いや自然と親しみやすい環境整備を考えていきたい。 ・高齢者に快適な環境を作ってほしい。 ・ホームセンターが出来たことにより生活用品はすぐに購入できるが、オムツやベビーフードは町内では難しい。 ・一定の収入のある方(購入も視野に入れながらもまずは賃貸を希望するファミリー、転勤族で賃貸を希望)の住まいが不足し、町外からの通勤を余儀なくされるのはもったいない。
	住民企画課 (買い物環境)	・買い物等利便性確保の観点から、町内関連団体の推薦者からなる推進協議会(一般公開)や、議会の特別委員会において、中心市街地の整備(買い物環境整備、交通拠点整備、賑わい創出)の方向性について議論を行いました。 →市街地総合再生基本計画推進協議会(令和2年度 2回開催) →複合庁舎建設等調査特別委員会(令和2年度 4回開催)	・長期的かつ波及的な経済効果が得られる事業としていくため、さまざまな条件(民間事業者との連携、補助事業の活用、人の集まる仕掛け作り等)を整理していく必要がある。	・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会特別委員会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。	
	総務課 (公共施設)	・各種検診や相談業務を充実するために健康福祉センターを建設したが、開庁前のため今後の取組となる。		・健康福祉センターの機能を有効活用するための取組を強化する。	
	産業振興課 (働く場創出)	・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の実施。 →R2新規助成:1事業者1人(年間6事業者6人) ・UIJターン新規就業支援事業の実施と町内企業への法人登録の推進。 →R2新規法人登録及び求人登録 5事業者 ・「ワークinツベツ」での町内求人情報の見える化の開始。	・事業者と求職者、それぞれが求める仕事のマッチング	・UIJターンの町内企業の法人登録の推進と「ワークinツベツ」との連携。	
	[1-1-5] 保育サービスの充実	保健福祉課	・令和元年度10月から始まった「教育・保育の無償化」制度の制定に伴い、子育てのための施設等利用給付事業(一時預かり保育の無償化)を実施した。 → R2事業利用児童:7名 R2 事業実施児童述べ人数:792人	・制度の浸透、利用者(保護者)への説明(認識の齟齬が生じてしまう)。	・利用者が理解しやすいような資料の作成を検討。

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』学校教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●健やかで豊かな人間性と多様性・国際性を育む教育が実践されています。</p> <p>●子ども一人ひとりに応じた、未来を切り拓く力と将来に向けた選択肢を与えられる教育が実践されています。</p> <p>●小中一貫教育化による“津別ならではの”体系的で特色ある授業が実践されています。</p> <p>●先進的で新しい学びの教育を受けられるまちとなっています。</p> <p>●地域全体で子どもを育てるまちとなり、地域の魅力を発信できる人材、まちづくりに参画する人材が育っています。</p>	<p>[1-2-1] 特色のある学校づくり「食育・木育」と「交流」のさらなる充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようになることを目的とする。</p> <p>・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに興味をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。</p> <p>・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。</p> <p>・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。</p> <p>【木育】木の町に生まれ育った子供たちが、津別の基幹産業である林業等への理解を深めながら将来を担う人材を育成するために、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へいし、森で木に触れる体験や木工製作を実施。</p>	<p>【食育】コロナ禍の中授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p> <p>【木育】講師が高齢化してきているので、次の講師選定を現講師ともに検討中。</p>	<p>【食育】今後授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>食育・木育ともに学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分。</li> <li>・育った場所のことを知る機会が増えるのは良いこと。併せて深い話も聞けて、更に意識が高まる。小さいうちから知れる子どもたちが羨ましい。</li> </ul> <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を活かした外育は生涯学習として最適ではないだろうか。</li> <li>・コロナ禍なので、昨年同様に給食費の無償化が良い。</li> <li>・木育マスター講師の人材育成も地域で行い、地域の人材を活用すべき。地域の事業者がボランティアベースの薄謝で、外部講師には交通費や謝金が支払われるのは、地域経済活性化の視点からも良くない。</li> <li>・コロナ禍だからこそWEB学習を実施しても良い。学習機会を失うのは、町としても大きな損失。</li> <li>・津別の教育はたくさん内容があり、支援も厚い。津別を知ってもらい、体験してもらい+疑問に対して、自らリサーチして答えを導き出す学習を盛り込んでいかか。地域の人々がそれを手助けできる仕組みが、津別ならではの教育につながっていくのでは。</li> </ul>
<p>●地元食材を使った安全で美味しい学校給食が継続的に提供されています。</p>	<p>[1-2-2] 地域学(ふるさと教育)の充実《全学齢一貫した取組の実践》</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・町教育委員会で作成し、小学校3～4年生で使用する「社会科副読本」を使用し、津別の歴史や産業を知る授業の実施</p> <p>・津別峠やノノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。</p> <p>・町の産業を直接見て知るため、町内の工場等の見学授業の実施。</p>	<p>・コロナ禍でバス移動(1台で密になる)がしにくくなっている。</p> <p>・コロナ禍で工場の見学が難しくなっている。</p>	<p>・学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとを知ることは良いこと。続けてほしい。</li> <li>・ふるさとを若い世代から学ぶのは良いこと。良さを理解し、いつか故郷に戻ってきてくれたら良い。</li> <li>・本当に良い学びだと思う。協力できる場所があれば、協力していきたい。</li> </ul> <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を活かした外育は生涯学習として最適ではないだろうか。</li> <li>・地域学の持続・発展には講師の人材育成、学習プログラムの充実を進めていくための事業化、活動が必要。</li> </ul>
	<p>[1-2-3] コミュニティ・スクールの実践と体験型教育の充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・コミュニティ・スクールの名称を「学校運営協議会」へと変更。</p> <p>・R3.3に学校運営協議会を発足した。</p> <p>・体験型授業としては、ふるさと教育と通じるものがあるが、津別峠やノノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。</p>		<p>・学校の課題等を出してもらいながら、学校運営協議会委員と共に開かれた学校を目指していく。</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リノベーションの取組などで協力していきたい。</li> </ul> <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を活かした外育は生涯学習として最適ではないだろうか。</li> <li>・他地域で行われている地域学習や体験学習と連携し、学び合い、教え合う機会が作れないか。自分の地元の理解や地域の多様性を学ぶ機会として、活動プログラムを実施できる地域間連携の組織が必要。</li> </ul>

<p>[1-2-4] 先進的なICT、教育手法等の導入推進及び学校現場支援</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・文部科学省のGIGAスクール構想補助金を活用し、一人一台端末や学校のLAN環境を整備した。</p>	<p>・端末を使用した授業の仕方、使用方法や遠隔授業時のルール作成等</p>	<p>・使用方法や遠隔授業時のルールを作成し、端末を使用した授業を実施していく。</p>	<p>[評価]          ・中学でipadが導入されはじめた。良い方向にいったほしい。          ・ICTに力を入れることで学びやすい環境につながると思う。素晴らしい取り組みだと思う。          ・子ども一人ひとりに手厚い教育環境を提供できるのが強みだと感じる。大きな差別化になるのでは。          ・助成金を活用しながら、子どもたちの学びをサポートできる体制を作れることは良いと思う。</p>
<p>[1-2-5] 多様性を認め合うための体制整備(特別支援教育のさらなる充実と理解度向上)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・特別支援教育を充実させるため、小学校に学習支援員を8名、中学校に1名の計9名を配置した。          ・特別支援連携協議会で広木先生の講演会・事例検討会を予定していたが、コロナ禍で中止とした。しかし、広木先生の紹介で藤女子大学の庄井先生を紹介いただき、特別支援児童の相談に乗ってもらっている。</p>	<p>・誰でもできる仕事ではないことから、人員探しに苦慮している。</p>	<p>・継続的な人員配置を適切に行っていく。          ・今年度は、講師を招いての講演会・事例検討会の実施を目指す。</p>	<p>[評価]          ・特別支援学級については本当に大変だと思うが、頑張ってもらいたい。          ・多様性を認め合うことの重要性を強く感じている。それを体現することは容易ではなく、すごいなと感じている。</p> <p>[提案]          ・支援員の充実には本当にありがたい。一方のアプローチとしてICTの普及がある。個別最適化を目的として先行事例などを参考とし、活用できる人材の雇用、育成が子どもたちの一助となる。</p>
<p>[1-2-6] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する教育の実践</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・コロナウイルス感染防止のため、利用者の制限もあったが臨時交付金を活用して「図書パワーアップ事業」で家で過ごす時間が増えたこの機会に、読書に親しんでもらえるきっかけづくりと合わせて、広報誌により読書推進活動のみえる化を図った。(6月～10月みどりの清流折込4回・掲載7回、新刊お知らせ10回)</p>	<p>・公民館で健診時に実施していた、ブックスタート事業や絵本ふれあい事業が健診場所が変更になるため、図書室の利用促進に更なる工夫が必要になる。</p>	<p>・本に触れる機会をより多くの町民に広げ、親しんでもらえるよう、各団体と協力連携を強める。</p>	<p>[評価]          ・アメリカの大学生に比べ日本の大学生は読書量が1/10。こうした取組で本が好きになってくれたら良い。          ・子育て支援センターにも本がたくさんあり利用している。          ・新しく建設される図書館も楽しみ。子どもから大人まで楽しめる場所であるといいと思う。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-3 生涯学習・スポーツの推進 「いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>◎誰もが、生涯にわたりにいきいきと学び、活動しながら、暮らしていける環境が整っています。</p> <p>◎年代に応じた多様なスポーツ機会が確保され、年間を通じたスポーツ、文化事業(夢を与える事業)が展開されています。</p> <p>◎町民ニーズに応じた多彩な生涯学習、社会教育メニューが充実しています。また、町外からの来訪者に対しても提供され、交流人口・関係人口の拡大、外貨獲得、移住促進に寄与しています。</p>	<p>[1-3-1] 生涯スポーツと健康づくりの推進</p>	生涯学習課	<p>・コロナウイルス感染症防止対策を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。保健福祉課との連携事業も、実施してから運動の継続が図られ、人数制限を設けて開設していたトレーニングルームで運動する方も増えている。「総合型クラブ(つべつ)事業との連携し、健康維持につなげることができた。</p>	<p>・コロナ禍で自宅に引きこもりがち生活となり、体力や筋力の低下、肥満などが懸念されていることから、運動機会の創出のための事業展開の工夫が必要。</p>	<p>・ウォーキングマップ整備に向けて高校生ボランティアサークルひまわりが中心となって「みどころマップ夏編」を作成する。</p>	<p>[評価] ・施設使いやすい。様々な取組も素晴らしい。 ・スポーツに力を入れている町であり、取組は本当に素晴らしい。コロナ禍だからこそ行われている良い事業。 ・ウォーキングマップ作成に高校生が参加するのは良い。楽しみ。</p> <p>[提案] ・コロナ対策として人数や時間制限を設けることは賛成だが、1時間では怪我予防としてのストレッチ等を含めると十分な運動量の確保が難しい。1時間30分までに変更してはどうか。 ・ランニングマシンが少ない。ランニングマシンか自転車は子どもたちが使えるようにしてほしい。 ・健康づくりには素晴らしい環境になったが、町内の施設の休館日と定休日为重なり使えていない。</p>
<p>◎世代間交流、異年齢交流が活発に行われています。</p> <p>◎若者の拠点(たまり場、しゃべり場)が確保されています。</p> <p>◎使いやすく行きやすい図書館があり、誰もが勉学・情報収集に関心を持ち読書を楽しみ、本に親しむまちとなっています。</p>	<p>[1-3-2] ニーズに応じた多様な社会教育事業の推進</p>	生涯学習課	<p>・コロナウイルス感染症防止の観点から実施できない事業が多かったが、高齢者の学びとしての寿大学は工夫をして15講座実施した。コロナ禍だからこそ集う・体験する・学ぶことの大切さを感じられる時間となり、仲間に会える喜びや会話の楽しさなどともに学びあえる仲間の存在を実感できる機会となり、欲求やストレスの解消につながった。(学生54名、15講座、延べ参加者数525名)野外で実施できる藻琴山ハイキング(参加者7名)、チミケツ湖でカヌー体験(13名)を実施した。社会教育講座では、(株)道東テレビ立川彰氏を講師に「オンライン時代の情報発信講座」を実施した。(参加者12名)</p>	<p>・コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施の工夫</p>	<p>・生涯学習一覧表の作成で社会教育事業の見える化</p>	<p>[評価] ・一覧表よい。見える化すると参加しやすい。 ・寿大学、良い取組。世代ごとに学ぶ場があるのは素敵。</p>
<p>◎家庭教育を通じた「親子学び」、「子育て学び」による親子成長機会が確保されています。</p>	<p>[1-3-3] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する生涯教育の実践</p>	生涯学習課	<p>・臨時交付金を活用して除菌ボックスを設置したが、カウンター業務のなかでも本の消毒作業など徹底して行った。施設閉鎖期間を活用して除菌や室内環境の整備を行い、利用者が図書室で読書や調べものができる空間も確保した。</p>	<p>・コロナ感染症防止対策の観点から、ソーシャルディスタンスをとると、十分なスペースが確保できない。</p>	<p>・図書館建設に向けて、資料・情報収集に努める。(郷土資料など)</p>	<p>[評価] ・人口4,000人ほどの町で、今ある図書館の広さは十分。 ・学べる機会が増えると楽しいと思う。 ・新しく建設される図書館も楽しみ。子どもから大人まで楽しめる場所であるといいなと思う。</p>
	<p>[1-3-4] 若者の拠点整備(たまり場、しゃべり場)</p>	生涯学習課	<p>・「津別町青年活動プロジェクトand」の活動は、メンバー18名で定例会7回主催イベント2回(出張サンタ、出張オニ)広報活動、他団体のイベントへの協力3回(オンライン)を実施したが、コロナ禍のなかで思うように活動できなかったことから、拠点整備に向けての検討は進んでいない。 ・「高校生ボランティアサークルひまわり」の活動のなかで、都丸雅子氏・荻原由美乃氏を講師に「リノベーション研修」を行ったことは、拠点整備が研修の目的ではなかったが、次に繋がる事業だったと思われる。</p>	<p>・コロナ禍で活発な交流ができないことから、たまり場・しゃべり場集うの場の創出の検討ができない。</p>	<p>・活動PRの強化、町内外における青年同士の交流強化</p>	<p>[提案] ・なかなか集まらないと思うが、若者サミットのようなもので新しい人が発掘できたら良い。 ・協力していきたい。リノベの際には他エリアの若者団体にも声をかけて、交流&amp;楽しみながらできたら良い。</p>

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●まちづくり活動を活発に行う人(活動人口)の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。</p> <p>●異世代間の交流が活発に行われています。</p> <p>●まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。</p> <p>●まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。</p>	<p>[1-4-1] 「いいね」プロジェクト・「笑顔」プロジェクト・「応援し合う」プロジェクト</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>●町内小中学校において、「あいさつをしっかりとできる」、「他への思いやりの心を育む」等に取り組んだ。また、中学校では、生徒会活動の中の、「目指す生徒目標」4つの「あ」の実行の中で、「あいさつ・・・元気なあいさつ」が掲げられ、生徒自らが取り組みと振り返りを行っている。</p>		<p>●今後も、「あいさつ」、「他への思いやりの心を育む」等に取り組みを進めていく。</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学生のあいさつが良い。</li> <li>●小・中・高生の挨拶は本当によくできている。学校の教育が素晴らしく行き届いていると感心している。</li> <li>●学校を訪れた際のあいさつが素晴らしく感心した。</li> <li>●「タウンニュースつべつ」の継続を応援している。</li> <li>●「いいね」と認め合うところが良い。これからも良い気風を培っていききたい。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「あいさつ」の評判良い。繋がりのある地域になったら嬉しい。「ANYTIMES(アプリ)」のような仕組みがあると良い。</li> <li>●若者の交流の場としてandが活躍しているのは心強い。若者が活躍できる場や町内の先輩方と交流の機会を増やせたら良い。</li> </ul>
<p>●胸を張って「津別を自慢」できる大人が増え、その言動を子どもが見聞して伝承されています。</p> <p>●「ウエルカムつべつ」の土壌が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています(関係人口増加)。</p>	<p>[1-4-2] 多世代交流、異業種間交流の促進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>●道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。</p> <p>→地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数220名、多世代・異業種交流イベント12回(令和2年度)</p> <p>→起業支援型コワーキングスペース 動画生配信番組 2番組(つべつな話、THE井戸端会議) 番組発信がきっかけでまちづくり団体発足 2団体(令和2年度)</p> <p>●3月に幸町通においてリノベーションWEEKイベントを実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。</p> <p>→参加者延べ261名(令和2年度)</p>	<p>●コロナ禍での3密回避の観点から、多世代交流のハードルが非常に高くなっている。</p>	<p>●オンラインでの交流の機会も広げつつ、コロナ対策を徹底した上で対面での交流の企画も探っていく。</p>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業を通じて向上した民間の町づくりに対する意識を、今後どう波及させていくかが課題。民間主導では資金力など限界を迎える。単発的企画として終わらないよう継続的支援が必要。</li> <li>●異業種交流で人を集めるのは難しい。職場見学を兼ねたワークショップなどいかがか。</li> <li>●オンラインに力を入れるべき。交流を意識する人であれば参加率は上がる。</li> <li>●コロナ禍でできないこともあるが、事業や施設を利用していききたいと思っている。気軽に参加できる仕組みも作っていききたい。</li> </ul>
	<p>[1-4-3] 交流・発信による人材育成</p>	<p>住民企画課</p>	<p>●広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、様々なまちづくりの活動にスポットライトを当てることで、まちづくり活動参画へのモチベーションを上げ、地域づくりへの参画人材の拡大を図った。</p> <p>→計12回放送、YouTube視聴回数19,836回(令和2年度)</p> <p>→住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合66.2%(令和元年度)</p>	<p>●まちづくりへの参画人材が増えることで、多種多様な人が協力、連携する必要性が増している。</p>	<p>●様々な人材で共通の目標に向かっていくために、調整力や合意形成能力を有する人材の育成を行っていく必要性について検討を行う。</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●どんな仕事か求められているのか、どのように参画できるのかわからない。</li> <li>●発信の先駆けとして町内外から注目を集めている。発信によって、より知ってもらい今後につなげていけたらよい。</li> <li>●津別の今を知るのに動画が役にたったと聞く。近隣エリアからも「おもしろい取組をしている」と言ってもらえるのは情報発信の強化によるもの。連携を模索しやすくなっていると思う。</li> </ul>

<p>[1-4-4] 住民提案型のまちづくり方策・条例等の検討</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【R6年度から】 ・未着手</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>[評価] ・非常に楽しみ。 ・イメージがわからない。先行事例はあるか。</p> <p>[提案] ・観光地域づくりにつながる条例制定を前倒しで進めてほしい。コロナ禍で観光客の行動が変容し、利用される側・受入側の体制整備は急務。</p>
<p>[1-4-5] 「津別町まちおこし大学 ver.2.0」の実施</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【R4年度から】 ・北海道大学学生サークルHALGGと津別高校生との高大連携事業によるまちづくり人材の育成 →高校生による提案11件(令和2年度)  ・北海道大学公共政策大学院との包括連携協定締結による、人的資産、知的資産の交流の地盤形成 →令和3年3月8日協定締結</p>	<p>・すでに、自主的にまちづくりに関する研修等を実施している個人・団体もあるので、重複する取り組みを行うべきではない。</p>	<p>・何か新たなものを作りだすのではなく、町内ですでに実施されている研修や人材育成の洗い出しと、それらをつなげたカリキュラム化を行う方向で検討を進める。</p>	<p>[評価] ・内容をもっと詳しく知りたい。</p> <p>[提案] ・自分たちの提案を自分たちで実践できると良い。プレゼンも自分たちで配信してみるなど。 ・体制、組織づくりが肝になると感じる。 ・津別にはレジェンドがたくさんおり、ノウハウや経験を伺いたい。ぜひ実現してほしい。</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-1 保健・医療の充実「安心して生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>●津別病院が存続し地域医療が維持されており、誰もが必要な時に必要な医療を受けることができます。</p> <p>●「地域包括ケアシステム」の向上・推進により、医療・福祉・介護・行政(教育)に関わる福祉サービスが一体的に受けられるようになっていきます。</p> <p>●“病気になっても”、“介護が必要になっても”、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らし、最期を迎えたいという希望が叶えられるまちとなっています。</p>	<p>[2-1-1] 津別病院を中心とする地域医療体制の維持</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>●地域医療の中核拠点として、町民にとって不可欠な病院として、連携を強化し、対話を重ね地域医療体制の維持に努めた。対話4回</p> <p>●地域医療体制維持のため、町内唯一の医療機関である津別病院に継続的に助成を行った。140百万円</p>	<p>●コロナ禍で受診者が減少し、病院経営的に厳しさを増している。</p> <p>●建物、設備の老朽化が進行し、建替えを含めた、将来的な医療体制の構想づくりが求められる。</p>	<p>●求められる地域医療の在り方を整理し、会社・病院、行政間で綿密な協議を重ね、病院建替えも含めた構想づくりに着手する。</p>	<p>[評価]</p> <p>●津別に病院があることの重要性は感じているが、私自身何をしたら良いのかわからない。</p> <p>[提案]</p> <p>●重要な役割を担っているものの、企業努力として存続しているため、新たな医療体制の構築や運営方法を積極的に検討する必要がある。運営者は、町民の声や地域の要望を受け止め、望まれる医療の形へ反映させてほしい。</p> <p>●コスト削減でICTや遠隔医療なども含めて、充実した医療を受けられるとありがたい。</p> <p>●小児科がほしい。津別に新規で来る方はほしい小児科難民。</p> <p>●10年後を見据えた医療人の育成・確保は大きな問題。老朽化した施設では限界があり、受診者や勤務職員の減少が増していく。</p>
<p>●健康寿命延伸に向けて町民一人ひとりが自ら健康づくりに取り組んでいます。</p>	<p>[2-1-2] 地域包括ケアシステムのさらなる向上・推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>●高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、医療・介護の関係者や地域住民が連携し対応を協議する会議や研修会等を行った。(令和元年度実績)⇒在宅医療・介護連携推進会議:4回、多職種が参加する研修会:1回/24人、地域ケア会議:6回、介護予防・生活支援体制整備事業協議会:2回</p>	<p>●高齢化の進展により、地域において「支え手」となるマンパワーの不足が懸念される。</p>	<p>●若い世代も役割をもって支えあい活動に参加できるような提案する。例)SOSネットワークの登録、認知症サポーター、ボランティア登録など</p>	<p>[評価]</p> <p>●在宅もあり。地域で最後までいられるのはありがたい。</p> <p>●「支え手」の確保に関して同意。継続的な活動を応援する。</p> <p>●保険福祉課の皆さんはよく高齢者それぞれのことを知っているなど感心している。</p> <p>[提案]</p> <p>●構築には医療に携わる多職種が介入する姿勢が重要と思われる。病院内の意識改革が必要ではないか。</p>
<p>●介護予防、重症化予防、リハビリ等の予防に向けた取組のさらなる重点化</p>	<p>[2-1-3] 介護予防、重症化予防、リハビリ等の予防に向けた取組のさらなる重点化</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>●介護保険制度による各種介護予防事業を計画し、社協や町内団体と連携しながら実施した。(令和元年度実績)⇒健康教育:7回/147人、いきいき百歳体操開催支援:7団体/延2,637人、ふれあいいきいきサロン:10団体、転倒予防教室:26回/延557人、通所型介護予防事業(ミズナラ倶楽部):117回/延552人 ※一部事業は津別社協、かるとちやつべつへ委託し実施。</p> <p>●リハビリテーション専門職の派遣ならびに相談指導(令和元年度実績)⇒家庭訪問:10回、ミズナラ倶楽部:2回、サロン・百歳体操等:4回</p>	<p>●身近な会場に集まって行う「集団参加型」の介護予防事業を展開していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策により実施が困難になった。</p>	<p>●高齢者自身で行える運動や、健康管理について、分かりやすい方法で情報を提供する。</p> <p>●リハビリテーション専門職とも協力しながら、高齢者自身が主体的に取り組めるような動機付けを行う。</p>	<p>[評価]</p> <p>●取組が素晴らしい。</p> <p>●サロンにたまに参加しているが、皆楽しみにしている。参加者にとっても貴重な時間となっている。</p> <p>●リハビリスタッフが手伝いできることもあるので、お声がけください。</p> <p>[提案]</p> <p>●津別病院のリハビリテーション職員をもっと派遣できないか。津別町のような地域では理学・作業療法士が地域で活躍することに意義がある。</p>
<p>●自発的な健康づくり・健康維持に向けた取組の推進</p>	<p>[2-1-4] 自発的な健康づくり・健康維持に向けた取組の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>●特定健診、各種がん検診:令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため夏の集団健診を中止したが、受診率向上のために計画していた個別勧奨ハガキの効果で、新規受診者が増えた。</p> <p>●運動栄養教室:健康づくりのための教室(アンチエイジング教室、60代の筋力アップ教室、食物学習グループ)を実施。アンケートを実施し、教室内容や今後の運営方針の参考とした。</p>	<p>●健診受診率は、がん検診は国よりも若干高いが、特定健診は低く、年次推移は横ばいである。</p> <p>●教室の新規参加者が少ない。</p>	<p>●受診率向上のため効果的だった、個別ハガキ勧奨を実施する。</p> <p>●町のデータ分析をすることで課題を見出し、その解決のための施策を検討していく。</p>	<p>[評価]</p> <p>●個人個人の健康にアプローチし、素晴らしい取組。</p> <p>●薬剤師も参画している。手伝いができると思うので、お声がけください。</p> <p>[提案]</p> <p>●森林セラピープログラムを活用できる仕組みが作れないか。</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいを持って暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>◎年代、性別、障がいの有無などに関わりなく、地域全体で支え合い、共に生きる「地域共生社会」が構築され、地域コミュニティの力を活かした、地域での見守り・支え合い活動が活発に行われています。</p> <p>◎行政・地域・関係機関が一体となった包括的な支援体制の構築が図られ、充実した支援により、より一層高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町となっています。</p>	<p>[2-2-1] 地域の支え合いによる地域福祉の推進</p>	保健福祉課	<p>・認知症の方やその家族を地域の中で見守り、支えていく体制づくりの強化を図ることを目的に事業実施した(令和2年度実績)⇒メール配信システム「ささえねっと@つべつ」:登録者:531名/配信0件、徘徊高齢者検索模擬訓練:1回/31人</p> <p>・認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療、介護等の連携強化による地域の支援体制を構築する活動を行った。(令和元年度実績)⇒認知症初期集中支援チームによる支援:5人、「認知症の人にやさしいお店」登録:8事業所、認知症サポーター養成講座:3回/51人、認知症カフェの開催:10回/延438人、家族茶話会:1回/5人、出前カフェ:2回/16人、認知症高齢者見守り事業:12回/延76人</p>	<p>・メール配信登録者の伸び悩みがある。</p> <p>・認知症高齢者とその家族を支えるために、どのような場が求められるのか更にリサーチが必要。</p>	<p>・メールだけでなく、情報伝達の他の方法(LINE、SNS等)も実施。</p> <p>・実際に案件が生じた際の配信だけではなく、「メールマガジン」等の情報提供で、平時からの体制づくりを実施する。</p> <p>・認知症高齢者とその家族を支える場を、地域住民と協働で創出する。例)認知症カフェを既存の店舗と共同開催、認知症サポーター養成、「認知症の人にやさしいお店」登録の推進等。</p>	<p>[評価]</p> <p>・今まであまり知らなかった部分で、色々な取組をしていることを知った。</p> <p>[提案]</p> <p>・アプリや情報発信は、それぞれに登録しなくてもわかりやすくなると良い。メルマガのように取捨できるように。</p> <p>・津別病院を情報発信場所として活用してはどうか。院内掲示物や配布など周知に貢献できる。</p>
<p>◎高齢者が培ってきたことを活かし、より一層生きがいと楽しみを持って暮らせる町となっています。</p> <p>◎障がい者の就労の場が確保され、社会の一員として生きがいを持って働くことのできる町となっています。</p>	<p>[2-2-2] 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり</p>	保健福祉課	<p>・高齢者が培ってきたことを活かし、生きがいと楽しみを持って社会参加できるよう、規定に則りボランティア活動を行った際にポイントを付与する有償ボランティア事業を実施した。(令和元年度実績)</p> <p>⇒介護予防いきいきポイント事業:登録者93人、12か所/延156人、生活サポートセンター事業:登録者81人、</p> <p>・高齢者の様々な権利を守ることを目的とし、虐待防止や成年後見・市民後見推進に関する取り組みを行った。(令和元年度実績)⇒虐待防止研修会:1回、市民後見人フォローアップ研修:1回/延、※一部事業は津別社協へ委託し実施。</p>	<p>・高齢者自らも、主体的に社会参加できるような動機付けや様々な方法での体制づくりが必要。</p>	<p>・身近な地域で、社会参加や見守りが行える場の開催を支援する。例)ふれあいサロン、いきいき百歳体操、各種のボランティア事業等</p>	<p>[評価]</p> <p>・素晴らしい取組だと思う。</p> <p>・ポイント制など楽しみながらボランティア活動ができる仕組みは良い。</p>
<p>◎認知症や障がい、発達障がい、特別支援教育に対する町民一人ひとりの理解度が向上し、相互に尊重し合う、福祉に優しい町となっています。</p> <p>◎多様な主体が参加する地域福祉・ボランティアが活発に行われ、福祉事業の先進地・中心地となっています。</p>	<p>[2-2-3] 予防を重視した在宅福祉・介護サービスの充実</p>	保健福祉課	<p>・高齢者の実態把握を目的とし、介護予防事業の参加状況や関係者からの情報提供、家族からの相談、職員が家庭を訪問して生活状況を把握した。</p> <p>【個別訪問】年度内に80歳、85歳、90歳の年令に到達する者を個別に訪問し、生活状況を把握した。(令和元年度実績)⇒80歳:51人、85歳:29人、90歳:11人、年齢外:14人</p> <p>【安否確認訪問】生活支援員(ホームヘルパー)が定期的に訪問することにより、登録者の生活・健康面の変化を把握し早期に生活支援方法を検討した。(令和元年度実績)⇒12回/延88人</p>	<p>・これまで介護状態になってから対応していた高齢者について、「事前対応型」の支援が行えるようになったが、発見後のフォローについてマンパワー不足である。</p>	<p>・介護予防のため生活状況の改善が必要な高齢者に、適時必要な支援が行えるよう、地域住民とも連携できる場の創設。例)身近な福祉相談所「ぼっと」の開催支援等</p>	<p>[評価]</p> <p>・重要項目だが知らないことが多いと改めて気づいた。</p> <p>・津別は福祉が充実している。ありがたい。</p>

<p>◎誰もが居場所と役割のある全世代活躍のまちづくりを目指しています。</p> <p>◎社会的孤立者といわれている生活困窮者やひきこもりの状態にある本人・家族を適切に支援する取組を推進します。</p>	<p>[2-2-4] 障がいのある人が自立しやすい環境づくりの推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・令和2年12月1日付で町内に移動支援事業所が設立されたことにより、利用者の余暇支援や家族の負担軽減を図ることができた。 →令和2年利用実者 3人</p> <p>・係間だけではなく、病院などの関係機関と連携し、町内に在住している障がい者の実情アセスメントを実施することにより、適切なサービスに繋げることができた。 →就労系サービス:新規利用者 2人、総利用人数 18人 居宅介護:新規利用者 4人、総利用人数 7人 児童通所サービス:新規利用者 3人、総利用人数 24人</p>	<p>・町内に雇用の場(サービス事業所)が少ない。 ・農福連携の話し合いがなかなか進まない。繁忙期のみの雇用では安定したサービス供給とは言えないので、通年雇用についての検討が必要である。 ・当事者意見を聴取する機会がすくない。</p>	<p>・定住自立圏構想の枠組みの一つとして1市4町で「北見地域地域生活支援拠点」の設置がなされるので、他市町とも情報を共有しながら、社会資源やニーズについて検討していく。 ・当事者の意見聴取の場について設置を検討する。</p>	<p>[評価] ・重要項目だが知らないことが多いと改めて気づいた。</p> <p>[提案] ・充実している。障がい者の雇用場所が増えると良い。</p>
---	---------------------------------------	--------------	--	---	---	---

3 成果基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-1 交通環境の整備「快適・安心で潤いのある生活を支え人とまちの魅力をつなぐ交通環境の確保」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>・地域交通（公共交通）として移動ニーズに対応した移動サービスが確保されており、町民の交通環境が整備されています。</p> <p>・町民の潜在力も含めた地域力が発揮され、地域に最適な利便性の高い生活交通等、地域交通の維持・確保が進められています。</p> <p>・新たな技術の進歩を踏まえ、地域の実態に即した新たなモビリティサービスの導入検討が進められています。</p>	<p>[3-1-1] 津別町の地域特性に応じた面的な地域交通ネットワークの再構築</p>	建設課	<p>・「自らデザインし続け、豊かな暮らしの創出を目指す津別の交通」を基本方針とした津別町地域公共交通計画（令和3年度～令和7年度）を策定した。</p>		<p>・津別町地域公共交通計画に基づく施策の効果的な実効</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要なことだと思う。勉強していきたい。</li> <li>・挑戦の中で困っていることは無いのか。挑戦中の内容が不明。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学費がかかることから子どもが自由に学び場を選択できない可能性があり、津別に住まない選択をする家庭があると聞く。地元の子どもの自由な学べる環境を見据えた交通戦略も考えてほしい。</li> <li>・観光客も利用できるサイクリングシステムを事業化できないか。</li> </ul>
	<p>[3-1-2] 地域交通（バス）の利便性向上と利用促進に向けた取組の推進</p>	建設課	<p>・「自らデザインし続け、豊かな暮らしの創出を目指す津別の交通」を基本方針とした津別町地域公共交通計画（令和3年度～令和7年度）を策定した。</p>		<p>・津別町地域公共交通計画に基づいて地域公共交通の利便性を向上させる</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要なことだと思う。勉強していきたい。</li> <li>・挑戦の中で困っていることは無いのか。挑戦中の内容が不明。バスは町民にとって困っていることは無いのか。</li> </ul>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心して快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<ul style="list-style-type: none"> <li>若者や子育て世帯の定住促進に向けた多様な住環境が確保されています。</li> <li>高齢者、障がいのある人にとって安心して住みやすい住環境が確保されています。</li> <li>誰もが、ライフスタイルやライフステージに合わせて住み替えができる住環境が整備されています。</li> <li>空き家バンク制度が町内外に広く浸透し、空家・空き店舗が定住促進・町の活性化に寄与しています。</li> <li>町内在勤者や若年層の移住・定住が進み、日中と夜間、平日と週末の人口格差が少なくなっています。</li> </ul>	<p>[3-2-1] 定住促進に向けた住環境整備の推進</p>	<p>建設課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定住促進に向け10年以上の定住を条件に、津別町新ふるさと定住促進条例による新築奨励金として5件、空家流通の促進に向け、中古住宅購入の奨励金として3件交付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者や子育て世帯の住宅ニーズの把握の仕方について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新ふるさと定住促進奨励金の継続</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に移住した方の素直な良い点、悪い点のヒアリングが重要。</li> <li>企業が空き家流通のために住環境整備する場合を奨励金の対象とするなど、要件を拡充すると空き家の利活用が更に加速するのではないかと。</li> <li>福祉の関係や子育ての関係からでも住宅を流動的に使えるようになれば良い。</li> <li>定住には将来的な医療体制の充実が必須であるため、津別病院の充実が急務である。</li> <li>市街地以外でのネットワーク環境の整備(光回線)が不足している。</li> <li>在宅医療がより促進していく中で、中心街に近いコンパクトな住環境の整備が大切。</li> <li>現在、すぐ住める空き家が不足している。解決策として、所有者が物件を手放す際に利用できる奨励金などがあると良いと思う。負担を軽減することで、ライフスタイルにあった住み替えをしやすい環境を作れば定住に繋がる。</li> </ul>
	<p>[3-2-2] 空家対策事業のさらなる推進と制度活用・浸透に向けた情報発信の強化</p>	<p>建設課 住民企画課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空家等の利活用と適正管理、除却を進めるため、空家等撤去補助制度について広報誌により周知を図っており、19件に補助金を交付</li> <li>空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空家等延べ登録数: 空家18件、土地7件 →利用希望者延べ登録数: 39名 →マッチング件数: 住宅賃貸8件、住宅売買7件</li> <li>町内広報誌への周知チラシ折込や、町外者に向けて固定資産税納付書への周知チラシ折込、町外協議会HP及びイベント等を利用した制度及びサポートデスクの周知等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空家戸数の正確な把握ができていない</li> <li>平成30年より本格稼働しており、現在までの期間では登録・マッチングともに常時動きがある状況だが、現在の手法では登録・マッチングに至っていない新たな物件等を掘り起こす手法について検討が必要。</li> <li>物件の価格設定や修繕料を知りたいという相談を受けることも多い。当施策内では算定不可であるため、改めて施策内容の周知が必要。かつ対応を講じる必要性についても検討事項。</li> <li>登録されていない物件への調査要望が増えている。所有者特定や登録に至るまでの時間と労力がかかり、サポートデスク業務の負担が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空家等撤去補助制度の継続</li> <li>現在でも物件・利用者ともに登録数は多く、他者の紹介での登録も見られるが、利用者側の希望に沿った物件が登録されていないこともあり、新たな掘り起こしやルート開発を検討していきたい。</li> <li>2年半の運用を通じて課題も見えてきた。随時対応を行いながらも運用面での改善を講じていきたい。</li> <li>自治会や建築業者との繋がりをより深め、互いにwin-winとなるような関係性を作り連携していきたい。</li> <li>利活用実績や優良事例等の発信を検討したい。</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3Dスキャンを利用して現状が伝わるようにしてはどうか。きれいな写真よりもありのまま紹介するべき。</li> <li>所有者の特定と解体の承諾を得るような施策を打ち出せないか。また、空き家撤去に関しては、町の補助事業として行うため、建設業許可の他、解体工事の許可を得ていることが要件として必要ではないか。</li> <li>登録がなくても、現在の空き家状況など自治会等を通じて把握できたら使えそうな家を交渉できるかもしれない。</li> <li>空き家利活用の促進には、幅広い部署との連携と情報共有が更に重要。購入希望者目線から考える「空き家になる前に最低限しておいてほしいこと」などのマナー講座などで所有者側の意識向上を図ることも必要と思う。さらなる情報の掘り起こしには自治会との協力が必要不可欠なので、地域一丸で協力し合える体制をつくりたい。</li> </ul>

[3-2-3] 次 期住宅整備 計画策定に 向けた検証と 町民ニーズの 把握	建設課	・町営住宅入居希望者の入居理由の聞き取り	・町民ニーズの効果的な把握 方法の仕方について	・町民ニーズの把握	[提案] ・入居決定時の必要書類について、HP等で事前にわかる ようにしてはいかかが。 ・内覧したいという希望がある。空き物件でなければ難しい ので、例えば図面や写真を掲載してはいかかが。
---	-----	----------------------	----------------------------	-----------	--

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●町内で日常の買い物ができる環境が整っています。</p> <p>●町民が地元の美味しい野菜や特産品を気軽に購入することができるようになっていきます。</p> <p>●空家・空き店舗が減少し、すっきりとした街並みと景観が保たれたまちとなっています。</p> <p>●誰もが手軽に様々な情報を得ることが出来る情報通信網が充実しています。</p> <p>●災害時などいかなる場合においても、常に安全で安定した水の供給と生活排水の処理ができる環境が整備・保全されています。</p> <p>●冬期間でも誰もが安心して歩いて暮らせる中心市街地(まちなか)が実現しています。</p>	<p>[3-3-1] 買い物環境の充実</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●起業等振興促進条例に基づき、ニコットの出店支援。町民の買い物環境の充実につながっている。</p> <p>●この他にも起業等振興促進条例及び空き店舗等を活用した飲食店の新規出店相談がきており、町内消費の促進が期待される。</p> <p>●地元食材を活用した飲食物や特産品の販売拠点として、レストハウスつべつの整備を実施したが、諸事情により現在休店中。</p>	<p>●既存店主の高齢化。</p>	<p>●商工会を中心として、消費者へのニーズの調査、マーケティング</p>	<p>[評価]</p> <p>●とても良いと思う。</p> <p>[提案]</p> <p>●Lukaの再始動に関して、町民や出資者から望まれない事業が成功するとは考えにくい。町民の意見を再調査したうえで進めたほうが良い。</p> <p>●サードプレイスとなれるような環境を整備してほしい。</p> <p>●子育ての問題として紙おむつが買えないなどあるので、ドラッグストアは必須になってくる。</p> <p>●買い物環境は年代や家族構成によって違うが、今後の人口減のニーズにあった店作りや環境整備が必要。</p> <p>●町にこういう店、サービスがあると嬉しいというのを発信してはいかかがか。その為にはリノベーションのさらなる普及が必要である。また、起業までのサポートの充実が必要。</p>
	<p>[3-3-2] 空家・空き店舗の利活用の推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>●空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。</p> <p>→空家等延べ登録数: 空家18件、土地7件</p> <p>→利用希望者延べ登録数: 39名</p> <p>→マッチング件数: 住宅賃貸8件、住宅売買7件</p> <p>●セルフリノベーションを通じて空家利活用のハードルを下げるためノウハウを共有し、リノベーションをより身近に感じてもらうためのイベントを実施した。</p> <p>→現地参加者数: 延べ261名</p> <p>→オンライン参加者数: 延べ97名</p>	<p>●平成30年より本格稼働しており、現在までの期間では登録・マッチングともに常時動きがある状況だが、近い将来停滞することが予想される。新たな物件掘り起しの手法等について検討が必要。</p> <p>●リノベーション文化の浸透までは至っておらず、さらなる推進を図りたいが、継続して推進していく体制について検討が必要。</p>	<p>●現在でも物件・利用者ともに登録数は多く、他者の紹介での登録も見られるが、利用者側の希望に沿った物件が登録されていないこともあり、新たな物件掘り起しやルート開発を検討していきたい。</p> <p>●2件のリノベーションパイロット事業を通じて蓄積されたノウハウを最大限に活用し、リノベーション文化が地域に根付くよう促進していきたい。</p> <p>●継続した推進体制の構築について検討を進めたい。</p>	<p>[評価]</p> <p>●もっと知りたい。活用したいと考えている。</p> <p>[提案]</p> <p>●企業として積極的に協力したいが、セルフリノベーション案件については、トラブル回避のため発注者側と施工範囲について十分な確認が必要。</p> <p>●古い物件や、買い手が見つからない物件などは解体も視野に入れるべき。新築住宅の候補地にもなり得る。</p> <p>●レストハウスを幅広い事業者で利用できるようにならないか。</p> <p>●空き家バンクは次の段階にきている。それは「すぐ住める空き家提供」「希望物件の掘り起こし、マッチング」「不要な家財道具の活用」の3点。そして、リノベーションの取組推進は必要不可欠。次の展開として「空き家利活用のノウハウ販売」が可能になる。</p>

<p>[3-3-3] 町内施設における公衆無線(Wi-Fi)の充実</p>	<p>総務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光ファイバー網については、個人用としては、現状不足している状況にはない。</li> <li>・東岡ファームの光ファイバについては、開場前に設置する。</li> <li>・津別町木材工芸館「キノス」にR3年度Wi-Fiを設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スパート農業等関連の場合は、莫大な費用が必要となるため、農業関連予算の活用が不可欠となる。</li> <li>・IRU増設には、数百万円単位の費用が必要となるが、現状補助対象外のため、個人への対応としては難しい状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況等を把握するとともに要望等があったときには適切に対応していく。</li> <li>・公共施設のWi-Fiについては、さらに充実させる。</li> </ul>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良い。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の電波が届く範囲が拡大されると有事の際にも効果的ではないか。</li> <li>・利用者が多い場所では、wi-fi6なども検討してはどうか。</li> <li>・上里地区では回線に空きが無く、新規開設できない。道道588号線沿いでは個人住宅の新規光回線開設ができない。改善を望む。</li> <li>・個人用の光ファイバー網は現状不足していないとのことだが、どの程度大丈夫なのか。また、町内施設wi-fiスポットや各スポットでの利用方法紹介を作ってはいかがか。気軽に利用でき、町全体がリモートワークスポットとしてアピールできるようになる。</li> </ul>
<p>[3-3-4] 安心で快適な社会基盤を備えたまちづくりの推進</p>	<p>建設課</p>	<p>【土木】H25.3策定の橋梁長寿命化修繕計画により、計画的な橋の修繕を行っている。 →5橋を修繕(令和2年度) H26年度～これまでに26橋の修繕実施。 【水道】R2.12に老朽管路更新計画を策定し、R6年度より計画的に更新を行う。 【下水道】H30.12策定の下水道ストックマネジメント計画により、計画的に施設の更新を行っている。→受変電設備更新(R2) 【上水道】令和2年に上里導水管工事が完了し、町民への安定給水が確保された。 【下水道】下水道管理センター設備更新工事とマンホールポンプ更新工事が完了し、下水道環境が整備された。</p>	<p>【土木】修繕費用が大きくなってきており、計画の進捗が遅れ気味である。 【水道】対応年数内での更新を計画したが年度あたりの事業費が膨大なため、資金需要との調整が必要である。 【下水道】設備単位での更新となるため、ものによって膨大な更新費が必要となるが、国費の配分によっては計画伸延も考慮しなければならない。 【上水道】【下水道】老朽施設の改修と施設の耐震化を続けていく中で整備計画と資金計画を検討しなければならない。</p>	<p>【土木】新技術等の活用を検討することにより費用の削減を図る。 【水道】緊急時等にも対応できるよう「水安全計画」の策定を進める。 【下水道】公営企業法適用に合わせたストックマネジメント計画に見直しを行う。 【上水道】【下水道】休水人口の減少により料金収入が減収しており、今後の健全経営のため料金改定を検討する。</p>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単年度予算でなく、10年を見据えたものになると良い。</li> <li>・空き家の観点から、どのエリアで下水道が通っていて、どのエリアが浄化槽なのか、浄化槽の種類や違いなど事前にわかるとありがたい。</li> </ul>
<p>[3-3-5] 防災体制の整備</p>	<p>総務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策本部の立ち上げ、IP無線機を使用した災害現場からの状況報告等の訓練を職員のみで行った。32名参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で住民が参加しての訓練等が困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の訓練は継続して実施する。</li> <li>・多数の住民参加の訓練等が困難であれば、自治会役員等の少人数で机上訓練や研修会等を実施する。</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館の防災対策が知りたい。例えば発電機があったりするの。場所によってはwi-fi環境も必要と感じる。ブラックアウトのとき、相生地区で一番言われたのは充電できないということだった。</li> </ul>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-4 環境保全・エネルギー政策「『エコタウンつべつ』実現に向けた先進的なまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●再生可能エネルギー(太陽光・バイオマス)の比率が高まり、石油燃料依存体制からの脱却を実現し、持続可能な循環型社会・低炭素社会に近づいています。</p> <p>●木質バイオマスによる暖房システムが町全体に整備され、各施設での木質バイオマスボイラーの普及率が高まっています。</p> <p>●「エネルギーの地産地消」の実現に向けたエネルギー政策を積極的に推進しています。</p> <p>●「環境と経済の好循環システム」が構築されています。</p> <p>●緑豊かな美しい自然環境が維持されています。</p> <p>●省エネの取組がされています。</p>	<p>[3-4-1] 木質バイオマス活用促進に向けた取組</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・「地域内エコシステム」モデル構築事業(林野庁事業)に応募。令和元年度から継続地域として採択、地域資源である木質バイオマスを活用し、川上(原料供給)、川中(燃料製造)、川下(エネルギー利用)までのサプライチェーンの構築と、資源・エネルギー・経済の持続的な地域内循環の仕組みづくり「地域内エコシステム」の構築を図った。</p> <p>・川上(原料供給)側の取組として、旧本岐中学校グラウンドの未利用地を活用し中間土場を設置</p>	<p>・住民及び関連事業者等との合意形成</p> <p>・サプライチェーンの構築に係る施設整備に向けた準備</p> <p>・専門知識を有した機関との連携協力</p>	<p>・「地域内エコシステム」の構築に向けた、木質バイオマスセンターの建設、及び木材工芸館キノスへのチップボイラー導入</p> <p>・住民等への勉強会の開催</p>	<p>[評価]</p> <p>・ウッドロスマルシェってすごい！チップだけでなく、薪販売もあるとのこと楽しみ。</p> <p>[提案]</p> <p>・もっと普及されるべき。ペレット導入のハードルがまだ高いのでは。</p> <p>・上流から下流まで一貫した取り組みとして知ってもらうための「木育プログラム」を創り出し実施できないか。</p>
<p>●環境と経済の好循環システム」が構築されています。</p> <p>●緑豊かな美しい自然環境が維持されています。</p> <p>●省エネの取組がされています。</p>	<p>[3-4-2] 再生可能エネルギーの推進・PR</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・町広報(2021年3月号)にて特集「バイオマスの取組」を掲載</p> <p>・広報番組「タウンニュースつべつ」(#46)にて、木質バイオマスエネルギー特集を放送</p> <p>・町広報(2020年5月号)にて、補助金制度のお知らせ(太陽光、ペレットストーブ)を掲載</p> <p>・町広報(2020年10月号)にて、補助金制度のお知らせ(ペレットストーブ)を掲載</p>	<p>・専門用語をわかりやすく簡潔に伝えること</p> <p>・再エネの設備費用等コストが高いこと</p>	<p>・年1回、広報等により再エネの取組を掲載</p> <p>・関係事業者との連携により、ペレットストーブ普及に向けた展示会の開催検討</p>	<p>[評価]</p> <p>・石油を買う外に出るお金が、どの程度地産地消として落ちているのだろうか。石油を買った経費と比べて、どの程度コストは上がるのか。</p> <p>[提案]</p> <p>・ペレットストーブのインシヤルコストとランニングコストの推移が明確に見えれば導入率が向上するのではないか。現時点ではシミュレーションしにくい。</p> <p>・SDGsの取組事業として町内事業者を紹介・発信する。</p> <p>・新しくなる役場HPでも愛林の町として、この取り組みは見えて知れるようにしたい。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>●林業が誇りある基幹産業として地域を支えています。</p> <p>●津別の林業・林産業ブランドイメージと全国的な知名度がより高まっています。</p>	<p>[4-1-1] 労働環境の更なる向上とイメージ戦略による林業技術者及び担い手の確保</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●森林環境譲与税を活用した「林業従事者就業支援等補助事業」を策定し、新規林業従事者に対して補助を実施した(2名 補助額360千円)。</p> <p>●森林環境譲与税を活用した「林業従事者就業支援等補助事業」を策定し、新規林業従事者を雇用した事業体に対して補助を実施した(2件 補助額1,000千円)。</p>		<p>●若手や女性の就業に特化した取り組み</p> <p>●道東テレビが作成した各種映像の活用</p> <p>●道立北の森づくり専門学院の実習受け入れ</p>	<p>[提案]</p> <p>●一週間実際に働けるといったインターン制度など良いのではないかと。</p> <p>●映像などで知る機会をつくるのは良いと思う。移住定住サポートデスクとしても情報交換や連携をできればと思う。</p>
<p>●林業が若者の憧れの職業になっています。若い世代に林業・技術が引き継がれています。</p> <p>●森林・林業教育が学校や地域で行われ、子どもから大人まで津別の林業・木材加工技術に関する知識を持ち、全国の人に向けて町民一人ひとりがその魅力を発信できるまちとなっています。</p> <p>●労働環境や安全面のさらなる向上により、安定した収入が確保され、意欲的で高い技術を持った林業従事者が多く働いています。</p>	<p>[4-1-2] 林業の機械化・効率化の促進とスマート化に向けた調査研究</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●平成29年度森林現況解析及び森林ICT活用基盤構築事業により整備した航空レーザーによる森林資源解析成果を閲覧できるタブレット型PCを町内事業体に貸出し、森林整備の効率化を推進した。また操作検討会を開催した(貸出実績PC3台 検討会参加者3事業体4名)</p> <p>●森林環境譲与税を活用した「林業労働安全衛生推進事業」により、林業労働環境において、労働負荷を緩和する安全装備品の購入に対する補助を実施した(アシストスーツ、空調ファン付き作業着、切創防止チャップス、ネッククーラー等 355千円)</p> <p>●森林環境譲与税を活用した「林業労働安全衛生推進事業」により、町内事業体の林業機械購入に対する補助を実施した(4件 4,000千円)</p> <p>●上記補助事業において、町内事業体が道内2事例目となる苗木運搬用ドローンを導入し、操作実演会を開催したことから、職員が参加し情報収集を行った。</p>	<p>●森林管理や森林整備に対するICTの活用事例の情報が少ない</p>	<p>●スマート化に向けた関係機関やICT企業との連携</p>	<p>—</p>
<p>●ICT化・機械化による効率化が進み、先駆的な技術・手法を取り入れた持続可能な林業が展開されています。</p>	<p>[4-1-3] 林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●道立北の森づくり専門学院の学生が視察研修のため来町した際に、町のプロモーション映像等を放映し、町の林業・木材産業の魅力を発信した。(生徒34名 関係者4名)</p>		<p>●ブランディングに向けた可能性調査委託業務の発注</p> <p>●道東テレビが作成した各種映像の活用</p>	<p>—</p>
<p>●適正な施業と維持管理により、植え付けから伐採・利用までの理想的なサイクルが整い、木材需要に対応した、多様で健全な森林が形成されています。</p> <p>●地域資源を活かした木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利用が全町に波及し、温室効果ガス排出削減・災害防止などに寄与しています。</p>	<p>[4-1-4] 津別産木材の地域ブランド化と利用促進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>●SGEC森林認証の推進と認証森林から生産された木材を認証材製品として利用させるためのCoC認証に対する補助を実施。</p>	<p>●町内の主要造林樹種であるカラマツ・トドマツは比較的低質なイメージが強く、全国的な木材需要の中ではブランド化はハードルが高い</p> <p>●他地域とどこで差をつけるか検討を要する。</p> <p>●町内事業体の協力体制を構築する必要がある</p>	<p>●町内事業体からの地域ブランド化に対する意見収集</p> <p>●地域ブランド化に向けた可能性調査委託業務の発注</p>	<p>[評価]</p> <p>●丸玉木材さんの材料を利用するというのが重要になると思いますが、デザイナーを入れて先進的なプロダクト商品を生み出そうとすでに取り組んでいる。</p> <p>[提案]</p> <p>●SGECで毎年の定期審査に関しては助成がなく企業の出費が大きいです。建て主に対する助成制度はあるが、企業に対してはメリットがない。積極利用を推進するのであれば、SGEC認証の取得を入札参加要件に加えるなど、企業にメリットがある仕組みを整備いただきたい。</p> <p>●自然の森から木工製品まで、それぞれの事業者同士が連携してブランディングしていく仕組みづくりが必要。</p> <p>●新築、改築時に津別の木材を気軽に使用できる仕組みがあると嬉しい。</p>

<p>[4-1-5] 競争力強化に向けた町内企業との連携強化</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・日常的に津別地区林業協同組合や、北見広域森林組合と情報交換を行っている。</p>			<p>—</p>
<p>[4-1-6] 木育の推進と学校教育での林業体験学習の充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【木育】木の町に生まれ育った子供たちが、津別の基幹産業である林業等への理解を深めながら将来を担う人材を育成するために、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へし、森で木に触れる体験や木工製作を実施。</p> <p>・コロナ禍の影響で、予定していた丸玉木材の工場見学を中止している。丸玉木材を見学できていれば、再生可能エネルギーの利用についても実際に学ぶ機会を予定していた。</p>	<p>【木育】講師が高齢化してきているので、次の講師選定を現講師ともに検討中。</p> <p>・丸玉木材は、R3年度の工場見学の中止を決定しているため、代替案を検討中。</p>	<p>・学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>[評価]</p> <p>・津別らしさ、津別を知るという観点からもとても良いと思う。大人も学ぶ機会をいただきたい。</p> <p>[提案]</p> <p>・どうやって製材が私達の目の前に来るのかなど知れたら良い。</p> <p>・町内や管内に木育マイスターが数多くいるので、地元の講師を検討するべき。3、5年生の木育では豊かな森が広がる津別ならではの授業内容になっておらず、時代遅れと感じる。自然や林業、木材加工、バイオマスまで幅広い「木育授業」を再構築するべきと感じる。子どもたちの人材育成と同時に、講師の人材育成も地域で行い、地域の人材を活用するべき。</p> <p>・コロナ禍だからこそWEB学習を実施してもよいと思う。学習機会を失ってしまうのは町としても大きな損失である。</p>
	<p>産業振興課</p>	<p>・21世紀の森や町有林を活用し、津別小3学年及び5学年の木育授業を実施し、児童の林業に対する理解を深めた。</p>		<p>・木育授業における新規プログラムの実施</p> <p>・船橋市など他地域の児童を対象とした木育授業の展開</p>	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>・スマート農業と大型機械化が進み、津別ならではの創造性の高い農業が実現しています。</p> <p>・計画的な農地整備、機械化により、安定的で生産性の高い農業が行われています。</p> <p>・地域で作られた安全・安心で美味しい野菜・農作物を食べることができます。農業体験や「食育」を通じて、子どもたちが津別町の農業の魅力と価値をより一層感じられるようになっていきます。</p> <p>・「美味しい〇〇〇〇〇〇といえは津別町」という全国区の特産品が生まれています。</p> <p>・グリーンツーリズムをはじめとする農業×交流の体験プログラムが充実し、新しい人のながれとリピーターが農業への活気をもたらしています。</p>	<p>[4-2-1] スマート農業の導入促進・大型農業機械の導入促進</p>	産業振興課	<p>・令和2年度については、産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、ICT対応型機種としてGPS自動操舵システム48台、可変施肥対応型ブロードキャスター18台、車速連動装置付スプレーヤ1台、農薬散布ドローン1台を導入。最先端技術の導入により、作業精度向上による収量の増加、労働時間の縮減等が図られ、労働生産性の向上が期待される。</p>	<p>・機械のコストが高く、生産者全体の普及が難しい。</p>	<p>・当事業は、2か年計画のため、令和3年度も引き続き、ICT関連機器の導入を進める。</p>	-
	<p>[4-2-2] 「食育」の推進・農業体験の充実による農業の価値・魅力向上に向けた取組</p>	産業振興課	<p>・新型コロナウイルスの影響により、教育旅行の受入が全て中止となった。また、会員減少による担い手不足を解決する1つとして、受入の広域化に取り組んでおり、近隣の美幌町をはじめ、十勝の受入を中心に担っている「食の絆を育む会」と協力体制を築いている。令和2年度に「オホーツク農村ツーリズム連携会議」も発足され、更なる広域化に向け協議を行っている。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により、受入のみならず、会員拡大に向けたPR等の活動も制限されている。</p>	<p>・引き続き広域化に取り組むことに加え、グリーン・ツーリズム事業の趣旨を幅広く町民に伝えるため、有識者を招き講演会等を実施したい。</p>	<p>[評価] ・食育授業やオール津別産給食、農業体験、とても良い取り組み。</p> <p>[提案] ・グリーンツーリズムへの取り組みが役場内では「農政係」となっていて「観光」と全く連携できていない。教育旅行の受け入れは体験プログラムの充実も重要な要素だが、その連携が全く無いのが問題。「オホーツク農村ツーリズム連携会議」にはコンテンツ部会もあるが、連携会議の情報が入ってこないため連携できない。</p>
	<p>[4-2-3] 津別産食材のブランド化・生産者が主体となった6次産業化の推進</p>	産業振興課	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようになることを目的とする。 ・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに興味をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。 ・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。 ・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。</p> <p>【農業体験】小学3年生及び中学2年生の総合の授業で生産者の思いを聞いた後に、収穫体験を実施。かぼちゃの収穫や玉ねぎの選別等を体験している。また、津別小学校では、JA職員を授業にお呼びし、津別で生産している農産物や農家・JAの仕事について説明いただいている。</p>	<p>【食育】コロナ禍の中授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p> <p>【農業体験】コロナ禍でバス移動(1台で密になる)がしにくくなっている。</p>	<p>【食育】今後、授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>【農業体験】今後も、町の一次産業を体験する機会を作り続けていきたい。</p> <p>・食育・農業体験ともに学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	-
		<p>・生産者に対し、6次産業化に対する補助金等の情報提供を適宜実施。</p>	<p>・個々の経営規模拡大により、通常の農作業に追われ、6次産業化に対するニーズが少ない。</p>	<p>・生産者に対し、引き続き情報提供を行い、6次産業化についてのニーズの把握に努める。</p>	<p>[提案] ・3次産業の事業者と「連携して取り組む6次産業化」を推進し、地域全体での取り組みが地域活性化につながる。 ・津別高校生や若い主婦などと商品開発を行ってはいかがか。まちづくり会社などでできた理想的。</p>	

<p>[4-2-4] 農業の担い手の確保・人材育成</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により、海外はもとより、国内の移動においても制限されている状態の中、新たな労働力確保に向けてJAとともに協議を行っている。また、令和2年度については、新規就農者が1名おり、就農時の資金面のサポートや収益の安定に向けた体制整備をJAと連携行ってきた。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により、海外はもとより、国内の移動においても制限されている状態であるため、人材の確保が難しい。</p>	<p>・新規就農者の受入と雇用拡大に向け引き続きJAと協議を行う。</p>	<p>[提案] ・移住定住サポートデスクで、情報交換や連携をできればと思う。</p>
<p>[4-2-5] 強い農業・持続可能な農業に向けた基盤整備</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・本町の農業における生産能力の拡大と持続可能な農業の推進のために下記の事業を計画、実施した。 1、土地改良等 ①国営農地再編整備事業(津別地区)H27年から継続 受益面積2,482ha、R2実績 区画整理628ha(うち調査測量135ha) ②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)R3年新規採択 受益面積220.2ha R2実績 計画の策定 ③農業水路等長寿命化・防災減災事業(東岡地区)H30から継続 受益面積202ha R2実績 水利施設整備 配水施設 L=1,981.6m ③農業水路等長寿命化・防災減災事業(最上地区)R2新規採択 受益面積35,442haha R2実績 水利施設整備 配水流量計等 一式 ④農地耕作条件改善事業(相生地区)R1年から継続 受益面積18.4ha R2実績 農業用排水路 L=263m ⑤小規模土地改良事業 暗渠配水 L=1,871m 2、農業生産機能維持向上 ①多面的機能支払い交付金事業 鹿侵入防護柵・農業用排水・農業用作業道等の維持補修 ②鳥獣被害防止対策事業 有害鳥獣の駆除 ③環境保全型農業直接支払交付金事業 環境に配慮した農業生産への支援</p>	<p>1、土地改良等 気象変化に伴い土地改良のニーズは高まっている。加えて農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う機械の大型化に対応することが必要となっている。 また、安定的な生活および営農を行うための営農用水等の整備が必要となっている。 2、農業生産機能維持向上 農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う担い手の確保が必要となっている。</p>	<p>1、土地改良等 ①国営農地再編整備事業(津別地区) 継続 ②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)継続 営農用水整備(津別2地区)の計画の策定 ④農地耕作条件改善事業(相生地区)継続 ⑤小規模土地改良事業 継続 2、農業生産機能維持向上 ①多面的機能支払い交付金事業 継続 ②鳥獣被害防止対策事業 継続 ③環境保全型農業直接支払交付金事業 継続</p>	<p>—</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>◎まちなかに複合商業施設が整備され、町内で生活に必要な買い物をすることができます。周辺に多様な業態の店舗が営業しはじめ、中心市街地ににぎわいが戻ってきています。</p> <p>◎世代間・異業種・同業種の交流が活発に行われ、横の連携による様々な活動が行われています。</p> <p>◎若者にとって魅力ある仕事があり、住みやすい環境が整い、若者の定住が進んでいます。</p> <p>◎老若男女、障がい者も高齢者も外国人も、働きたい人が働ける、魅力ある仕事や働きやすい環境が整っています。働き手のニーズと仕事のマッチングにより労働力不足が解消しています。</p> <p>◎店舗や経営者の事業承継が進み、若者へノウハウやスキルが受け継がれています。</p>	[4-3-1] 若者の定住促進策と連動した若者の雇用推進	住民企画課	<p>・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p> <p>・北海道が主体の「北海道型ワーケーション普及・展開事業」に参画し、道内各自治体と連携して事業を実施した。</p> <p>→事業実績：ポータルサイトの作成</p> <p>・移住定住サポートデスクにおいて、Web上でのPRや道内外者向けイベントへ参加した。</p> <p>→参加イベント：1件(オンライン参加)</p>	<p>・コロナ禍の影響により町内外の往来が制限されており、移住促進への脅威となっている。</p> <p>・北海道が実施主体の事業についても、令和元年度は都市圏企業の社員が当町を訪れていたが、都市圏との往来制限によりポータルサイト作成にとどまっている。</p> <p>・移住定住サポートデスクにおけるイベント参加についても、都市圏で開催のイベントに参加できず。</p> <p>・上記の状況がいつまで続くか。</p>	<p>・コロナ禍が続けばオンラインがメインとなるが、動きを止めずに情報発信を継続していきたい。</p> <p>・限られたチャンス内でのイベントへの参加など、推進のために最大限促進していきたい。</p> <p>・推進するための事業計画や方針について定めるなどの準備期間としたい。</p>	<p>[評価]</p> <p>・移住促進への取組が主体で、「定住促進策」としての取組・実績が見えてこない。</p> <p>[提案]</p> <p>・お試し期間など住む環境があれば良い。</p> <p>・JIMBAが重要なコミュニティスペースになっており、移住の後押しになっている。コロナ禍で生配信や動画で津別の今を見て知ってもらえる状況が大きい。</p> <p>・ワークINツベツのスタートで、更に企業との連携が図れるようになったので、仕事・住まい・生活面などトータルでサポートできたら更に良くなっていけると感じる。そのために移住定住サポートデスクを更に拡充する必要があると感じる。</p>
	[4-3-2] 商業の振興と買い物環境の確保(複合商業施設の整備)	住民企画課	<p>・【再掲(1-1)】 買い物等利便性確保の観点から、町内関連団体の推薦者からなる推進協議会(一般公開)や、議会の特別委員会において、中心市街地の整備(買い物環境、賑わい創出、)の方向性について議論を行いました。</p> <p>→市街地総合再生基本計画推進協議会(令和2年度 2回開催)</p> <p>→複合庁舎建設等調査特別委員会(令和2年度 4回開催)</p>	<p>・長期的かつ波及的な経済効果が得られる事業としていくため、さまざまな条件(民間事業者との連携、補助事業の活用、人の集まる仕掛け作り等)を整理していく必要がある。</p>	<p>・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会特別委員会とで合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	<p>[提案]</p> <p>・複合商業施設と個人店舗を両方利用してもらうために、それぞれ魅力づくりが必要。既存店舗を巻き込んだ回遊する仕組みづくりも。</p> <p>・起業しやすい体制を更に進めていけば、もっと盛り上がる。起業した人達に大変だった点や改善を望む点などのヒアリングが必要。</p>
		産業振興課	<p>・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の実施。</p> <p>→R2新規助成：1事業者1人(年間6事業者6人)</p> <p>・UIJターン新規就業支援事業の実施と町内企業への法人登録の推進。</p> <p>→R2新規法人登録及び求人登録 5事業者</p> <p>・「ツベツワーク」での町内求人情報の見える化の開始。</p>	<p>・事業者と求職者、それぞれが求める仕事のマッチング</p>	<p>・UIJターンの町内企業の法人登録の推進と「ツベツワーク」との連携。</p>	
	産業振興課	<p>・起業等振興促進条例に基づき、ニコットの出店支援。町民の買い物環境の充実につながっている。</p> <p>・この他にも起業等振興促進条例及び空き店舗等を活用した飲食店の新規出店相談がきており、町内消費の促進が期待される。</p>	<p>・既存店主の高齢化。</p>			

[4-3-3] 多様な働き手・担い手による労働力確保	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育手帳の該当になるような人の発見に努め、療育手帳の所持と就労事業所での就労につなげることができた。(実績 就労B型に1名)</li> <li>障がい者の雇用の拡大までは図ることまではできていない。</li> <li>人活センターへは運営費補助をしているが、働く意欲のある高齢者の加入促進については何も行ってない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内の就労支援事業所はB型のみで、B型の就労に該当しない障がい者は就労の場がない。</li> <li>・年後の生活スタイルが多様化していることや就業している方の年齢も上昇してきていることもあり人活センターの登録者数は減少の一途にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援協議会での協議や町内障がい者就労支援事業所とも協議しながら、障がい者、事業所、双方のニーズを捉えることで、雇用や就労の場の拡大に努めたい。</li> <li>・人活センターの就業内容を町内企業に広報し、定年退職者に向けてのPRに努めてもらうことで会員数の維持確保に努めたい。</li> </ul>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングうまくいくとよい。期待しています。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していくことを考えると、人対人なので相互の理解を深めることも重要。各種イベントやコミュニケーションを図れる場所で一緒に何かを行いながら相互理解を深めることも必要。</li> <li>・人活センターは重要だと思い、空き家対策でも一緒にコラボできると思う。登録者数が減っているということに驚き、PRした方がよい。</li> </ul>
	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道つべつまちづくり株式会社が行う求人求職マッチング促進事業に協力し、津別町内事業所の魅力や求人情報を集約したサイト『津別町仕事情報発信サイト ワークINツベツ』を立ち上げた。</li> <li>→掲載申込事業所数: 26件</li> <li>・求人求職情報に係るヒアリング調査を実施した。(ハローワーク、職業訓練センター等)</li> <li>→実施件数7件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>津別町の実態を把握しきれておらず、実施すべき対策を明確にすることができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人、求職情報を収集し、課題を整理した上で、津別町に適した対策について検討する。</li> <li>・サイト運営を通じて新たな課題が出てくるのが予想されるので、柔軟に対応し、都度改善を図っていききたい。</li> </ul>	
[4-3-4] 各種交流促進によるスキル・ノウハウ継承の推進	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> <li>【R4年度から】</li> <li>「1-4-5 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施」の検討に本取り組みの要素を盛り込んでいく。</li> </ul>	—	—	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異業種交流は社会教育でも掲げるところなので連携していきたい。</li> <li>・津別にはレジェンドがたくさんいるので、ノウハウや経験などを伺いたい。ぜひ実現してほしい。</li> </ul>
[4-3-5] 企業誘致・街並みの整備	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>起業等振興促進条例に基づき、2件の企業誘致(ニコット、アグリエール)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>起業等振興促進条例の継続</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電ばかりになりそうなのは問題。北海道ではデータセンターなどが有利なようだ。水を活かしてお酒などもありでは。</li> <li>・古すぎる物件は改修費が大幅にかかるため個人で購入するにはリスクが高く、そのような物件は残ってしまう。利便性の良い土地は解体へ進める基準を設ける必要もあるのでは。</li> <li>・商業施設や学校近隣の空き地は少なく、空き家より高単価でなかなか成約しない。希望地区にある物件を格安で購入、解体し新築を建てることを考えても良いかと思う。街歩きワークショップをして考えてもよいかと思う。</li> </ul>
	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合庁舎建設等まちなか再生基本計画に基づく町民サービスゾーンとコミュニティゾーンでの、複合庁舎(役場、議会、健康福祉センター)、図書館、交通拠点、買い物拠点の一体的な整備を行う中で、まちなか地区の景観向上へとつなげることも目指している。</li> <li>・空き家、空き店舗を活用したエリアリノベーションを推進することで、シャッター街の解消や、古くからある町並みを活かした景観形成へとつなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き地について、まだまだ有効活用が進んでいない部分がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き地の活用ニーズについて、情報収集を行う。</li> </ul>	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>・新規起業への支援制度や体制、情報発信が充実し、創業・起業するために多くの人が集まっています。</p> <p>・空き店舗を有効活用したビジネスの拠点や魅力的な店舗の開業、交流の場など、多様な広がりを見せています。</p> <p>・事業承継が進み、自営業者の世代交代が円滑に進んでいます。</p> <p>・町内にコワーキングスペース等が充実し、自由で多様な働き方を受け入れる環境が整っています。</p> <p>・町内・町外の人交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-1] 創業・起業・交流のための空き店舗等の活用</p> <p>[4-4-2] 地元企業・経営者への支援</p>	<p>住民企画課</p> <p>産業振興課</p>	<p>・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空家等延べ登録数：空家18件、土地7件 →利用希望者延べ登録数：39名 →マッチング件数：住宅賃貸8件、住宅売買7件 ・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p> <p>・商工会や金融機関を中心に地元企業・経営者の支援を実施。</p>	<p>・コロナ禍において町内での多世代・異業種交流に制限があり、停滞気味である。 ・町外者の往来が制限されており、情報発信や相互交流がオンラインメインとなっている。</p> <p>・経営者の高齢化及びコロナによる業績悪化。 ・起業⇒商工会⇒町のように現場の声を吸い上げた結果町に対する要望がでてこない。</p>	<p>・空き家バンク、コワーキングスペース、地域おこし協力隊などの各種制度や施設の連携を通じて、空家や空き店舗を活用した起業等を推進していく。</p> <p>・商工会を窓口とした地元企業に対する経営支援等の要望調査</p> <p>・起業支援の情報発信強化</p>	<p>[評価] ・cafeの出店など一定の成果があり、今後の継続に期待。</p> <p>[提案] ・活用したいがハードルが高い。これから事業を立ち上げるときはお金がないので、大きく補助があると嬉しい。 ・なかには移住者ばかりメリットがあって町民にはないと言う方もいる。町民も利用できることをもっとアピールしてもよい。</p> <p>[評価] ・コロナ禍における雇用維持などは国の手厚い支援があるが、経営者・事業主への支援が手薄になっている。</p> <p>[提案] ・地方の中小企業を選んでもらうには、仕事内容や社内のことだけでなく、津別町の魅力など仕事時間外の楽しみをアピールすることも重要。移住定住サポートデスクは求人面の津別町アピールという観点で各企業とのコラボなど、やれることがたくさんある。</p>
	<p>[4-4-3] 起業支援・人材育成</p>	<p>産業振興課</p> <p>住民企画課</p>	<p>・町のホームページや移住サイトを通して、起業希望者へ各種支援策について情報発信を実施。</p> <p>・地域おこし協力隊員を対象とする「起業支援補助事業」を通じて、町内における地域おこし協力隊員及びOB・OGへの起業支援を行った。 →事業利用者数：2名（事業対象者：3名 ※うち1名は次年度も事業対象） ・地域おこし協力隊員を対象として、自主研修等に係る旅費及び研修負担金を負担することで、人材育成を図った。 →参加研修等：延べ4回</p>	<p>・コロナ禍において、起業へのハードルが高くなっていることから、補助事業利用の促進は勿論のこと、起業まで（起業後を含む）のフォローが求められる。 ・コロナ禍の影響で、地域おこし協力隊員が希望する研修への参加を許可できないという例もあり、スキル向上のために代替となるオンライン研修幹旋等の必要性を感じる。 ・起業だけでなく、事業承継についても推進したいが、推進の手法について悩んでいる。需要についても調査が必要。</p>	<p>・北海道つべつまちづくり株式会社と連携して地域おこし協力隊員へのフォローアップに取り組むことで、より密なフォローアップを検討していく。 ・町内外の地域おこし協力隊員同士の繋がりを作る工夫を行い、隊員同士の情報共有についても推進していきたい。 ・事業承継については行政だけでなく、商工会や金融機関等をはじめとする関係者と連携を図り、推進について模索していきたい。</p>	<p>[評価] ・起業支援を受けたいが具体的にどのような補助があるのか全然知らない。</p> <p>[提案] ・津別に足りない、求められる企業が何なのか。チャンスがあると思わせたい。 ・移住者が苦勞するのはゴミ分別である。わかりやすいマニュアルを作るべき。 ・起業しやすい体制をつくるには、起業した人たちにアンケートをとり、見えてきた課題を改善していくべき。 ・「起業家」としての人材育成プログラムや中央省庁で実施している人材育成プログラムへ参加するための支援や情報提供が少ない。協力隊員以外でも、町内の幅広い人が参加できるような環境整備を進めるべき。 ・事業承継については、良い取組だと思うが、通常の協力隊員以上に仲介・調整が重要。他エリアのケースを聞いても、事業者と継承者との意識のへだたりをうまく調整できるかが鍵となる。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>○「○○といえば津別町」と知名度のある特産品や観光地があり、津別町産の物を食べたり、購入できる場所があります。</p> <p>●魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっています。需要に合った宿泊施設が整備されています。</p> <p>●広域連携しながら道東の定番観光ルートに津別が入っており、多くの人が立ち寄るまちとなっています。</p> <p>●「稼ぐ力」を引出し、持続可能で地域資源の保全をしながら観光客を受け入れる観光振興体制が整っています。</p> <p>●エコツーリズムによる人的交流・観光が活発に行われています。</p>	<p>[5-1-1] 観光プロフェッショナル人材による観光地域づくりに特化した組織の形成と推進</p> <p>[5-1-2] インバウンド対応の推進</p> <p>[5-1-3] 持続可能な観光地域づくり</p> <p>[5-1-4] 町民が実感できる地域の魅力づくりと魅力発信人材の育成</p>	<p>産業振興課</p> <p>産業振興課</p> <p>産業振興課</p> <p>産業振興課</p>	<p>●観光協会を法人化</p> <p>●インバウンドを含めた受入れ体制整備の1つとして、津別峠展望施設及びネイチャーセンターに外国語も併記した周辺マップを整備した。 ●観光関係者がインバウンド受入れ研修を受講した。 ●2施設に翻訳機を導入。</p> <p>●観光協会の法人化により、協会の稼ぐ力を引き出す。</p> <p>●観光協会により、町民を対象とした景勝地ツアーを実施。 ●町が町民観光講座を実施予定であったが、コロナのため中止した。</p>	<p>●観光を主とした事業者が2者(協会、こだま)</p> <p>●各観光施設に英語を話せるスタッフがいない。 ●町内各種看板がインバウンド対応したものが少なく、また、統一されたデザインでもない。</p>	<p>●森のこだま及び観光協会と連携し、人材確保及び育成</p> <p>●アフターコロナを見据えた町内看板のインバウンド対応を含めた改修計画の検討 ●観光関係者のインバウンド研修の充実。</p> <p>●エコツー協議会に向けた調査・検討 ●稼ぐ仕組みの醸成</p> <p>●町民を対象としたツアーを実施し、観光に対する意識を高める。</p>	<p>[評価] ●法人化を実施しただけで役員体制は変わっておらず、「プロフェッショナル人材」に向けて今までと違いがわからない。 ●更に盛り上がっていくと思うので楽しみ。ネイチャーセンターは重要な拠点だと思う。</p> <p>[提案] ●すでにある地域資源の利活用に着目してはどうか。例えば21世紀の森キャンプ場の運営方法や設備の見直しなど。新しい提案に対して前例がないからできないという体質改善は必要に感じる。 ●ルールづくりなど泊まってもらう仕組みを考える場があると良い。</p> <p>[評価] ●観光アピールはよくできていると思う。現状のまま維持継続して欲しい。</p> <p>[提案] ●インバウンドに強い町になりたい。 ●インバウンド対応も必要だが、観光の受け入れが事業化されていない津別町においては、観光客を受け入れる地域の体制づくりがアフターコロナでの観光に向けて必須となる。 ●ゲストハウスとしても取り組まなければいけないと感じる。協力できることがあれば一緒に取り組みたい。</p> <p>[評価] ●ぜひ頑張っていたきたいです。</p> <p>[提案] ●観光の内容が魅力的であるかが重要。 ●町民も町外の方と関わり刺激を受けて楽しめる観光があると良い。 ●観光資源を将来世代まで維持していくためのルールづくりができていない。「観光や施設の整備などの経費を創り出す力」を地域全体で引き出さなくてはダメ。そのために観光客が負担する仕組みの整備が必要。地域として求める観光客が増えるような一定のルールを定めることが、地域ブランドの醸成にもつながる。エコロジーとエコノミーが持続可能な地域のルールづくりへの取組を進めることが急務である。</p> <p>[評価] ●緊急事態宣言後の取組に期待。</p> <p>[提案] ●町外に向けて誇れる魅力をブラッシュアップする必要がある。 ●ネットを見れない人向けの仕組みがあると良い。 ●町民が改めて地元の魅力を知る機会を定期的に開催してほしい。</p>

	<p>[5-1-5] 広域連携の強化と観光インフラ整備の推進</p>	<p>産業振興課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3町広域観光協議会でのトレイルルート整備事業の実施。</li> <li>・津別峠の国立公園編入及び拡張の検討(満喫プロジェクト)</li> </ul>	<p>・町内観光施設の老朽化</p>	<p>・ハード、ソフトを含めた全体的な改修計画の検討</p>	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレイルランに期待。</li> <li>・3町での連携になっているトレイルルート整備はとても良い。機会があれば行ってみたい。</li> </ul> <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津別峠頂上まで上がるまでの道路拡幅や道路標識の修繕、待避所の増設などハード面の整備が必要。</li> <li>・「持続可能な活用・維持管理」のための連携した組織づくりが必要。必要経費を稼ぐ経済活動が実践できる組織が求められる。地域として「観光で稼ぐ力」を創り出すための受入体制や構想の策定が不可欠。</li> </ul>
--	------------------------------------	--------------	---	--------------------	--------------------------------	--

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-2 地域交流の推進「人と人、地域と地域 つながりから多彩な魅力と価値が生まれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>◦交流拠点等の整備(図書館、複合商業施設等)がなされ、人々の交流が活発に行われています。</p> <p>◦南アルプス市、船橋市、台湾二水郷などの姉妹都市や、スポーツ合宿のつながりが継続発展し、全町民が親しみを持てる交流が行われています。</p> <p>◦スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあったさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。</p> <p>◦人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。</p> <p>◦定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。</p>	<p>[5-2-1] 多世代交流や異業種間・職場間交流促進事業</p>	<p>住民企画課</p>	<p>【R4年度から】 ・「1-4-5 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施」の検討に本取り組みの要素を盛り込んでいく。</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>[評価] ・前々から積極的に取り組んでいたことなので、コロナ後に盛んにやってほしい。</p> <p>[提案] ・津別にはレジェンドがたくさんおり、ノウハウや経験等を伺いたいと思っている。ぜひ実現したい。</p>
<p>◦スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあったさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。</p> <p>◦人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。</p> <p>◦定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。</p>	<p>[5-2-2] 姉妹都市やスポーツ合宿の来町者と町民との交流事業</p>	<p>総務課 (姉妹都市)</p> <p>生涯学習課 (スポーツ合宿)</p>	<p>・コロナ禍の中で姉妹都市等との交流事業等は実施していない。</p> <p>・コロナ禍のなかで、道外からのスポーツ合宿誘致が厳しい状況だったが、事前に体調確認をとるなどガイドラインを作成し、道内チームの受け入れは実施した。(7月～10月バスケットボール2団体、グレステンスキー9団体延べ人数501名)</p>	<p>・コロナ終息を待つしかない。</p> <p>・コロナウイルス感染症防止対策のため、長年合宿を継続していた道外チームの受け入れは困難なこと。道内外からの合宿受け入れに対しては、町民の理解が得られないこと。</p>	<p>・コロナ終息後の取組について検討しておく。</p> <p>・コロナウイルス感染症防止対策を講じた受け入れ</p>	<p>[評価] ・他エリアとの連携は大変良い。ただ継続しているだけでなく、深く繋がりが本当に交流している。</p>
<p>◦定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。</p>	<p>[5-2-3] 定住自立圏構想による行政や各機関の連携や交流</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・北見地域定住自立圏形成協定の中で、津別町内で発生する燃やすごみについて、北見市への持ち込みについて協議を行ってきた。本町及び同市により各種の条件等について整理を行うとともに、同市での焼却処理の可能性について検討した結果、焼却能力等にも問題がないことから、令和3年4月から北見市へと持ち込むこととなった。</p>	<p>・コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での会議開催ができていない。</p>	<p>・他分野においても、連携の可能性を模索していく。</p>	<p>[評価] ・1町ですべてを取り込むことは難しく、エリアで分担していくべき。ゴミの分別は埋めるゴミが多く心苦しかったので、燃えるゴミの範囲が拡大してよかった。</p> <p>[提案] ・オホーツクで子どもを育てるということを視野に入れ、津別にしか無い高校づくりを考える時期が来ている。</p>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-1 協働の推進「民間と行政が連携した行政運営とまちづくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<ul style="list-style-type: none"> <li>実施主体が中心となり行政は支援するスタイルができています。</li> <li>自治会や町民全般より高齢化する中で、民間の活動に頼った行政運営も実施されています。</li> <li>異業種、異企業、異集団が広範囲につながり連携して町の発展に貢献しています</li> <li>行政、各企業・団体の若い世代が集まり、意見交換できる環境が整っています。</li> <li>働き方改革推進協議会などで行政、民間が課題共有をしています。</li> <li>行政課題、企業課題、諸課題を官民で共有し協働・連携で解決することで「まち育て」をしています。</li> <li>官民の間で人事交流、職員相互派遣が実施されています。</li> </ul>	<p>[6-1-1] 官民間での人事交流の実施(人材育成と連携基盤の形成)</p>	<p>総務課</p>	<p>・北海道との人事交流を行っている。</p>	<p>・コロナ禍の中で交流内容等が制限されている。</p>	<p>・定住自立圏域内での人事交流</p>	<p>[評価] ・新たな視点が入ることや、他エリアの情報が継続的に伺えるなどプラス面が大きいと思う。</p> <p>[提案] ・観光の看板などのプロジェクトに町民を入れて活動するのはいかがか。 ・官民だけではなく官民での人事交流は進められないか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。</li> <li>SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。</li> </ul>	<p>[6-1-2] 自治会活動、行政活動などや協働事業の時代に即した在り方の研究検討</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・4月に自治会連合会(20自治会)において、市街地区・春の道路一斉清掃を実施し、冬期間に落ちた砂利や土砂・ごみなどを清掃し、地域と一体となって取り組んだ。</p> <p>・自治会活動の在り方などの研究・検討については、コロナ禍の中で話し合う機会がなく、未着手</p>	<p>・コロナ禍での3密回避の観点から、地域の交流の場がもてない。</p> <p>・高齢化により担い手不足が問題化してきている</p>	<p>・コロナ対策を徹底した上で、地域のつながりをもてる活動等を検討していく。</p>	<p>[提案] ・人口や世帯の減少から活動が成り立たない自治会もあるので統合など検討してはいかがか。 ・人口が多かった頃ののままの組織だと思うので子ども会を含めて一度整理してはいかがか。 ・防災の観点を踏まえて、避難場所の選定や機能充実などを図る必要があるのではないか。集約も必要だが自治意識が低下してしまうのは良くない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。</li> <li>SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。</li> </ul>	<p>[6-1-3] 関係人口の増加、移住促進事業(新たなプレーヤー(まちづくり活動人口)の増加)の強化</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・【再掲1-4-2】道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数220名、多世代・異業種交流イベント12回(令和2年度) →起業支援型コワーキングスペース 動画生配信番組 2番組(つべらない話、THE井戸端会議) 番組発信がきっかけでまちづくり団体発足 2団体(令和2年度)</p> <p>・3月に幸町通においてリノベーションWEEKイベントを実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ261名(令和2年度)</p>	<p>・コロナ禍での3密回避の観点から、多世代交流のハードルが非常に高くなっている。</p>	<p>・オンラインでの交流の機会も広げつつ、コロナ対策を徹底した上で対面での交流の企画も探っていく。</p>	<p>[評価] ・番組配信は情報の共有や発信にはなるが具体的な解決には至らない。番組継続の着地点はどこか。</p> <p>[提案] ・町を訪れる方や起業を考える方が増えている。継続するために道東エリアリノベーションプロジェクトの推進は欠かせない。予算化して正式なプロジェクトに育てていきたい。</p>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-2 行財政「効率的・効果的な行政運営と安定的な財政基盤の確立」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<ul style="list-style-type: none"> <li>AI(人口知能)、OCR(光学式文字読取装置)、RPA(ロボットによる業務自動化)を活用した事務の効率化が進んでペーパーレス化が定着しています。</li> <li>柔軟に人を動かせる組織体制が確立されています。(労働力の機動的配分)</li> <li>電子化等により文書管理の徹底が済んでいます。(集中的に移行作業を実施)</li> <li>人口減少や予算規模が縮小しても持続可能な行政運営体制が確立されています。</li> <li>ICT(情報通信技術)の有効活用、文書のデータベース化の徹底が済んでいます。</li> </ul>	<p>[6-2-1] ICT(情報通信技術)機器・技術の積極的な導入による業務効率化</p>	<p>総務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策の臨時交付金により、リモート化等によるデジタル・トランスフォーメーションの加速を目的とし、ノートPC24台、マイクスピーカーシステム大小 2台、打ち合わせ用ディスプレイ2台、Wifiルーター4台、外付ハードディスク1台を購入した。新庁舎において活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器の有効活用について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RPAについては、DEMOによる紹介を受けたが、今後検討していく。</li> <li>ペーパーレス化を推進する。</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設でマイナンバーカードのICで入場できるなど整備できると良い。</li> <li>ペーパーレスおよび情報の共有が重要である。部署間連携も重要度を増すので併せて取り組んでいただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>行政運営ノウハウ集、業務マニュアル(手順書)の完備による行政運営が効率化しています。</li> <li>行政運営での迅速な意思決定と適時情報共有化ができています。</li> <li>ICT(情報通信技術)等の活用により事務作業が効率化・自動化されています。</li> <li>柔軟に職員の配置を動かせる仕組みができています。</li> <li>北見地域定住自立圏が締結され連携が進んでいます。</li> </ul>	<p>[6-2-2] 働き方改革を含めた行政組織改革・運営</p>	<p>総務課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務事業見直しの手法を構築するプロジェクト会議を設置し、事務の見直しによる効率化、事務負担の軽減について議論した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革には至っていない。</li> <li>具体的なものになっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実効性のあるものにしていく。</li> <li>各会議等でも検討していく。</li> </ul>	<p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>押印廃止や書類簡素化など双方の事務負担軽減を加速すると良いのではないかと。</li> <li>中長期計画に基づく組織づくりに特化した部署があっても良いのではないかと。</li> <li>町民も入れたプロジェクト運営などを増やしても良いのではないかと。</li> </ul>

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-3 情報発信の強化「情報発信力の強化と戦略的シティプロモーション施策の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 評価、提案 (Assessment, Suggestion)
<p>・SNS等を活用した次世代型の情報発信(双方向即時連携)が整備されています。</p> <p>・プロフェッショナル的な統一性のある発信によるプロモーション展開が行われています。</p> <p>・子育て情報が整理されているプラットフォームが整備されています。</p>	<p>[6-3-1] ICT(情報通信技術)を活用したコミュニケーションネットワーク整備(次世代ネットワーク)</p>	<p>総務課</p> <p>住民企画課</p>	<p>・SOSネットワーク(ささえネット)をLINE、電話にも対応するよう検討した。R3.8頃開始</p> <p>・広報つべつをアプリ「マチイロ」で見られるようにし、地域情報のネットワークを整備した。また、それによりアプリ内でもホームページの津別町のお知らせを配信できるよう連携し、素早い情報発信や伝達が可能になった。 →令和2年度マチイロ登録者39人</p>	<p>・不特定多数に対する発信手段がない。</p> <p>・現在、広報つべつにてアプリの周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。</p>	<p>・登録者数を増加させる。</p> <p>・紙面だけで伝えるのではなく、ネットワークを利用した情報発信をより広げて、津別の情報をより素早く伝える方法を検討する。</p>	<p>[提案]</p> <p>・登録者数増加に向けてチャレンジつべつ等のHPで周知に協力する。</p>
<p>・ブランドメッセージの確立によるシティプロモーションが行われています。</p> <p>・必要な人が必要なときに必要な情報を受け取れる仕組みが整っています。</p> <p>・デジタルサイネージが町内に数多く設置されています。</p>	<p>[6-3-2] プロモーション媒体イノベーション事業及び広報人材育成事業</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・ホームページにおけるウェブアクセシビリティの強化や、広報紙の表紙カラー化の取り組みを行った。</p>	<p>・各課によるホームページの修正を行っているが、それぞれの課や係で編集を行うため、ホームページ全体の統一化が図れていない。</p>	<p>・広報紙でユニバーサルデザインを導入や、ホームページの編集方法の統一化などを検討する。</p>	<p>[評価]</p> <p>・広報はもっとあっても良い。掲載されていなく知りたい情報があった。</p> <p>・チラシが多く読みにくい。</p> <p>・現在のHPはわかりにくい。見やすく、わかりやすいHPに。</p> <p>[提案]</p> <p>・他町のようなHPに作り変えてはいいかがか。特に申請書等を探しづらいので常に最新版の様式が掲載されている申請書一覧ページなどを作ってはいいかがか。</p>